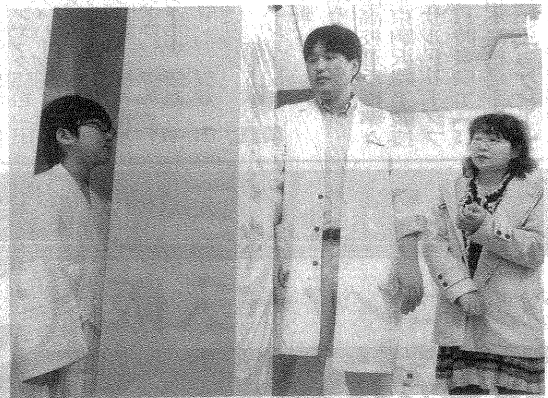


体の外から放射線を浴びる外部被曝に対し、体内に入った食品や水などから被曝するのが内部被曝だ。これまで通り、「不検出」だった。また一つ、「安心の積み木」を重ねられた。

健診をシステム化したのは、血液内科医の坪倉正治さん(33)。東京大の研究室に籍を置き、病院では一般内科を担当する。

いつも近くに坪倉さんがいたと、高村さんは思う。



なした。チェルノブイリ原発事故では、内部被曝値のピークが、旧ソ連の崩壊で食品管理がおろそかになった7年後に訪れた。「子どもの未来のため」「ここで生きる。」

ホールホテイクワンターに入る高村真聖君(左)と、母親の美香さん(右)、医師の坪倉さん。5歳の初検査の時は、イスの上に立つて測定した。源幸正倫撮影

「正しさ」をさを抱える。「正しさ」が示せば、その「正しさ」が人を追いつめもする。母親たちと一緒に考える姿勢を崩さず、繊細さも発信力も行動力も併せ持つ医師。高村さんは、坪倉さんに新しい医師像を感じている。

くらし
家庭

い」、特別養護老人ホームの副施設長として「施設でのみとり」を実践してきた鳥海房枝さんが「死はみな孤独死」と題して話す。

このほか、丸尾さんや同県尼崎市で在宅医療に取り組む長尾和宏さんが介護現場の実態を語り合う「全員そろってぶっちゃけトーク」、認知症の母親の日常を撮影したドキュメンタリー映画「毎日がアルツハイマー」を監督した関口祐加さんの講演などもある。

丸尾さんは「介護は、色々な情報を得ることで前向きになれることも多い。笑いを交え、肩の力を抜いて学べる場にした」と話している。

参加費は前売り3000円、当日4000円。申し込みは、つどい場さくらちゃん(電話・ファクス07998・35・0225、1、メールsakurachanmaru@bca.hai.ne.jp)。

「愉快に」介護学ぶ 10日西宮で講演会

高齢者が地域で暮らし続けるには「介護」「医療」「近所」の連携が欠かせないとの思いから、3つの頭文字をつなげたタイトルで、昨年までは「かいご学会」という名で年一回開催。今年は「楽しく愉快に」との思いから「愉快」と改名した。

「まじめに講演タイム」では、地域福祉に詳しい仙台北百合女子大教授の大坂純さんが「制度は幸せを保証するものではない」という。

昨年11月、母はめでたく10歳の誕生日を迎えた。6年前に鹿児島から連れてきて、今は施設でお世話になっている。

総理大臣からお祝いの賞状や銀杯、県や市からもお祝いを頂き、施設の方たちもくす玉など作って盛大に祝ってもらった。「私が100歳？」と、本人の頭の中は80歳代か、いや、もっと若いときのままで止まっているよ

元気で楽しく100歳の母

うだ。

94歳で足を骨折したが、手術をして再び歩けるようになった。病院の看護師さんたちも驚いていた。病氣らしい病氣をしたこともない。不死身かしら？

と思うことさえある。戦争もあり大変な時代を乗り

(同市西区)の主催。ペットが死んで悲しみにくれるペットロスからの再起について、宝塚動物霊園の僧侶が講演するほか、獣医師や弁護士らも、医療や法律など動物と人間の終活について話す。参加費は1000円。申し込みは、名前、参加人数、住所、電話・ファクス番号、メールアドレスを記入し、事務局(06・6541・5733)までファクス(06・6541・5722)で。

ペットの死乗り越えて

「ペットの終活 人の終活〜ペットロス乗り越え、豊かな老後を」と題したセミナーが、24日午後2時〜4時半、大阪市北区の大阪駅前第2ビルにある市立総合生涯学習センターで開かれる。NPO法人「ペットライフネット」

24日セミナー

越えてきた100年だ。

苦労話をよく聞かされていたので知っていたが、母はほとんど忘れ去ったようだ。自分の娘である私と、私の夫のことはなんとか分かっている。それだけで十分だ。今年も、施設の方々の助けをもらい、元気で楽しく過ごしてほしい。

竹ノ内 喜代子(奈良市、主婦、66歳)

50代の派遣社員の母が一人暮らしになり、ふと同居する兄弟が家を出ると、兄弟は元々が合わず、ち解けません。兄嫁の長男もから母の悪口を聞いていたため嫌いしていま

兄は4年前その後、兄嫁が見つか、し、退院後に手術をしまし間、母が買いたなをしまし謝の言葉はあ

母

肝心の母トしゃるので母上は事情をです。一緒にば、あなたにかっているよそれでもは、娘のあなすべきです。度は、あなたどのことばす。

要は、今卒所です。これめることでああなたは、喜らしたい、らどうしま